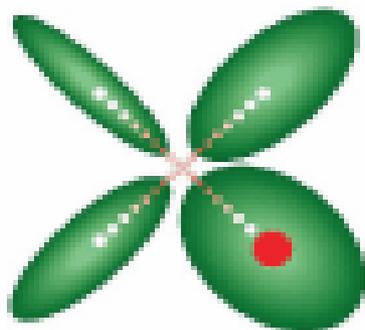


病床機能再編計画について



TOKUSHIMA
NATIONAL HOSPITAL

国立病院機構 徳島病院

徳島病院の概況

◇ 医療機能

- ① 神経・筋難病（筋ジスを含む）・・・基幹医療施設
 - ・ 四国神経筋センター
 - ・ 徳島県難病医療ネットワーク事業拠点病院
 - ・ 徳島県難病診療分野別拠点病院
- ② ポストNICU（8床）
- ③ スポーツ整形、ロボットリハ
- ④ 徳島県災害医療支援病院
- ⑤ 臨床研究部

◇ 診療標榜科（12診療科）

- | | | | |
|--------------|---------|---------|--------|
| ① 内科 | ② 脳神経内科 | ③ 消化器内科 | ④ 呼吸器科 |
| ⑤ 小児科 | ⑥ 外科 | ⑦ 整形外科 | ⑧ 眼科 |
| ⑨ リハビリテーション科 | ⑩ 放射線科 | ⑪ 歯科 | |
| ⑫ 麻酔科 | | | |

徳島病院の概況

◇ 医療法病床数

病床数	一般病床	300床	(5看護単位：各60床)
	内訳)	180床	(神経筋難病・一般)
		120床	(筋ジス・療養介護)

◇ 診療実績

令和3年度1月まで実績

区 分		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
1日平均患者数						
入院	一般	148.0	150.6	153.4	142.5	145.5
	筋ジス	93.9	89.6	88.7	88.7	85.9
	計	241.9	240.2	242.1	231.1	231.5
外 来		93.2	87.2	86.4	74.9	82.8
病床利用率						
入院	一般	82.2%	83.7%	85.2%	79.2%	80.8%
	筋ジス	78.3%	74.7%	73.9%	73.9%	71.6%
	計	80.6%	80.1%	80.7%	77.0%	77.2%

徳島病院の概況

◇ 病棟別病床数

(1月累計)

区分	病棟	疾病別	病床数	入院基本料		夜勤体制		令和3年度 1日平均 患者数	令和2年度 1日平均 患者数	
				承認区分	承認年月日	準	深			
一般	2階病棟	神経・筋、 一般	60	障害者 施設等 7:1	H25.5.1	4	4	49.8	47.9	
	3階病棟		60			3	4	47.5	46.8	
	4階病棟		60			3	3	48.3	47.8	
	小計	—	180	—	—	—	—	145.5	142.5	
	療養介護	1階病棟	神経・筋、 筋ジス、 PNICU	60	障害者 施設等 7:1	H25.5.1	4	4	42.6	40.5
		すみれ病棟		60	療養介護 2:1	H18.10.1	4	4	43.3	48.1
		小計	—	120	—	—	—	—	85.9	88.7
計	合計	—	300	—	—	—	—	231.5	231.1	

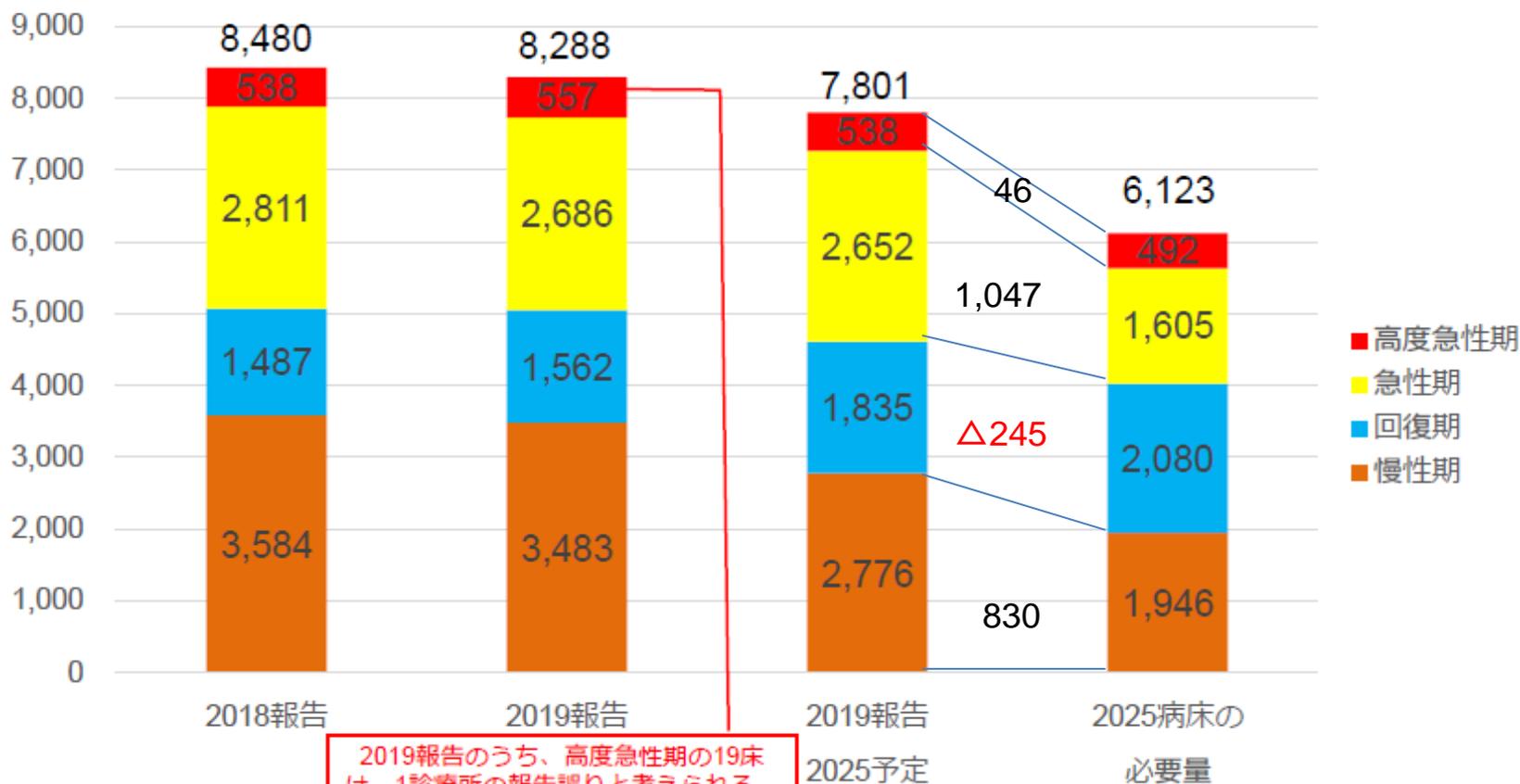
※ 超重症・準超重症児(者)数 142.9人

うち人工呼吸器装着患者数 91.6人 (R4.1月迄1日平均)

令和元年度病床機能報告 (R3. 3. 12 徳島県東部地域医療構想調整会議資料)

病床機能報告による病床数と病床の必要量との比較 (東部)

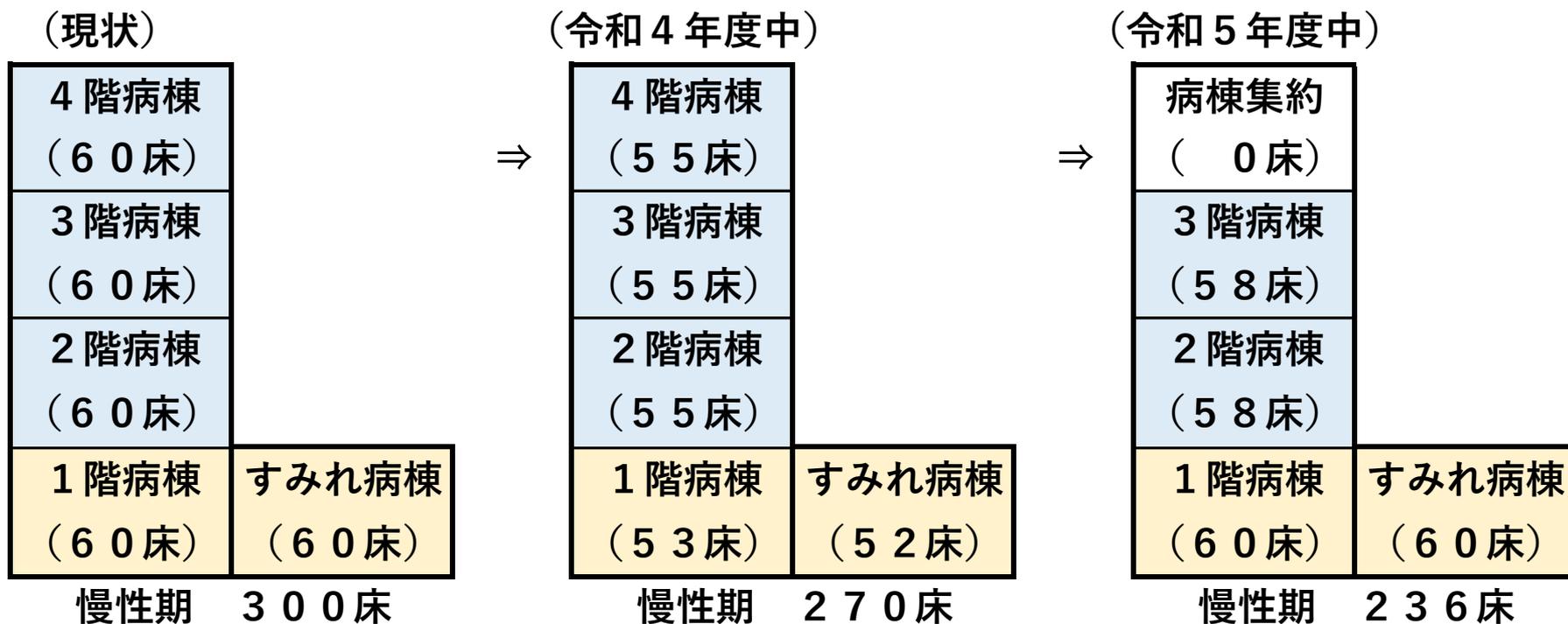
- 2019年の医療機能別病床数は8,288床
- 2025年の予定病床数は7,801床で、病床の必要量を1,678床上回っている



病床機能再編計画について

・ 300床 ⇒ 270床 ⇒ (設備整備等体制整備) ⇒ 236床

【再編計画のイメージ図】



病床機能再編計画について

- 徳島県東部医療圏において、令和元年度病床機能報告による2025年予定病床数と徳島県地域医療構想(東部)における2025年必要病床数を比較した結果は、予定病床数が1,678床上回っている状況であり、うち慢性期病床は830床上回っている。
- 将来あるべき医療提供体制の構築に資するため、地域で過剰となっている慢性期病床64床を削減することとし、より効率的かつ効果的な医療提供体制を整備いたしたい。具体的には、現在の稼働病床300床(60床×5ヶ病棟)のうち1ヶ病棟を集約するとともに、療養環境向上のための個室(4床)を整備することにより、236床(60床×2ヶ病棟+58床×2ヶ病棟)とするものである。
- なお、現在の病床利用率等を考慮し、再編途中において一旦は270床を5ヶ病棟で運営することとし、令和4年度中を目途として30床を削減する。その後、必要な施設・設備の整備を行い、令和5年度中を目途として1ヶ病棟を集約し、残る34床を削減する方法により段階的に機能再編することといたしたい。
- 機能再編後は、限られた医療資源を当院の機能である筋ジストロフィー患者や神経筋難病患者への医療に集中的に活用することとし、人工呼吸器を必要とする患者や重症化した患者を受け入れ、その病状にふさわしい医療を提供する役割を担い、在宅医療や回復期等を担う医療機関や介護との連携強化、役割分担を推進することにより、地域包括ケアシステムの実現に寄与してまいりたい。

病床機能再編に向けての施設整備計画の概要

1. 「病床機能再編支援事業」の活用

- (1) 地域包括ケアシステムの実現に向けて病診連携、共同利用の推進に努める

- 医療機器整備（MRI、CT等の更新整備）

2. 「病床機能分化・連携促進基盤整備事業」の活用

- (1) 医療機能を筋ジス・神経筋難病等へ集中的に活用
今後更に増加が見込まれる重症対応のための設備整備

- 液体酸素タンク、病棟系吸引ポンプの容量不足への対応

- 災害時等でも安定稼働が必要な人工呼吸器への対応
（非常用自家発電装置）

- 生体情報モニター等の設備整備による重症患者への対応

- (2) 療養環境向上のための個室整備

- 2床室 ⇒ 1床室への変更（4室）